

防除情報(病虫害情報 号外 第 2 号)

令和7年4月4日
神奈川県農業技術センター

令和 7 年度イネ縞葉枯病の発生予測と防除について

県内12地点の水田でヒメトビウンカの越冬世代虫密度を調査した結果、平均密度は33.6頭/9㎡(平年42.1頭/9㎡)であり、平年並でした(図)。
また、県内7地点の水田でヒメトビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を調査した結果、平均保毒虫率は6.7%(平年4.4%)となり、平年より高い状況となっています(図)。
越冬世代虫密度が平年並となっていますが、RSV保毒虫率が高いことと、4月以降の気温が近年高くなる傾向にあることから、本年のイネ縞葉枯病発生量は、平年比「やや多」と予想しています。

[防除]

水稻生育初期にRSVに感染すると被害が大きくなります。そのため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤を必ず施用してください。
また、田植前および作期を通して水田周辺の除草を徹底し、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期には農業技術センターの病虫害情報等を参考に、適期に本田防除を行ってください。

[防除薬剤例]

【育苗箱施薬剤】			
薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アドマイヤーCR箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱
グランドオンコル粒剤	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱
エバーゴルフオルテ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱
ブーンゼクテラ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱
【本田施薬剤】			
薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	収穫7日前まで	3回	3kg/10a
トレボン粒剤	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a

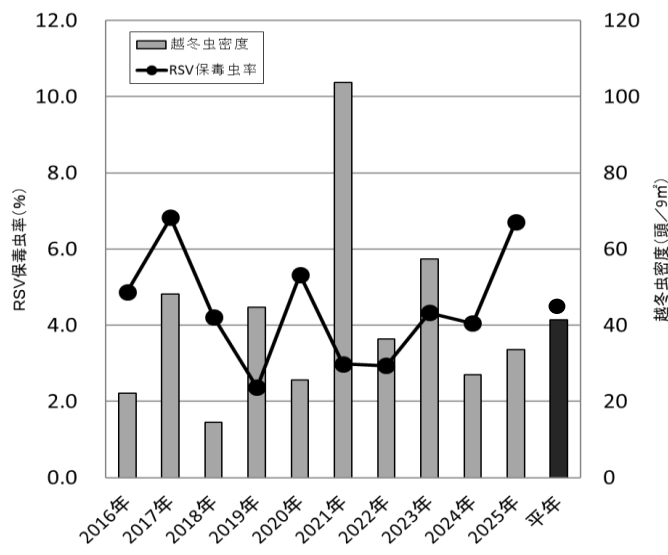


図 ヒメトビウンカの越冬虫密度及びRSV保毒虫率の経年変化

病虫害防除部
TEL 0463-58-0333
ホームページ
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

○農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。